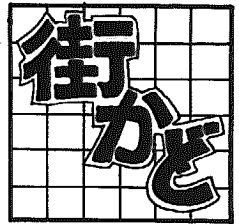


投稿

「町の未来へ握手」

木場一主婦

(匿名希望)



タイムカプセルを作ろう

仕事や子育てに追われ、つい社会情勢に疎くなりがちな多くの主婦にとつて、広報くろさきは、家にいながら町のことや社会のことを知ることができ、「社会勉強」として役に立っている。先日も中学生の娘と二人で広報を中心に黒埼町の今昔を話し合い、たいへんありがたいと思う。

その広報も二百号を数え、来年は町政施行十周年を迎える。このことは愛する町に住む者にとつてはこのうえなく嬉しい。明治二十四年旧五カ村合併以来、八十年の月日が流れた。

一町民の提案だが、この八十年の歴史の重みとして、さまざまな物をタイムカプセルに詰めたらどうだろうか。何十年後の人たちへの贈物として、場所は、町民の健康づくりに喜ばれている総合体育館の前庭あたりはどうだろうか。そして、夢と歴史をたぐきん詰めたタイムカプセルを開ける人たちは、黒埼市民じゃないかしら。

ヒューマンドキュメンタリーを豊かに  
昨秋、私はある文学誌の会合で長岡市の中越婦人会館へ出かけた。出席された人たちの中には、輝くような農民小説や自費出版を重ねられている老荘年氏が多く圧倒された。  
自己紹介の席上で、五十歳近い農村の婦人がこんなことを言った。「赤ん坊のころはみんなきれいなのに、年をとるとどうしてあんなにきたなくなるのかしら。町へ買物に出かけるときは、仕事着の上に一枚重ね、鏡を見てから行きませうけど、そういう私を見て短大出の娘が、「お母さん、外出するときも大切だけど、家にいるときの服装がいちばん大事じゃない。」と言

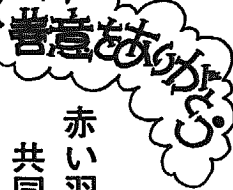
い、とても考えさせられました。」  
正月早々から、テレビや新聞で急速な高齢化社会の到来を耳にして、先の婦人の言葉とともに考えさせられたのである。  
テンポの早い現代社会では、五年もたてば、亡くなった方を忘れ去る。しかし、一人の人間にはヒューマンドキュメンタリーでも言うべき自分だけの歴史があるのだと思う。  
脳細胞の減少をふせぐためにも自分自身の歴史を心のタイムカプセルに詰めたい。また、私たち主婦も農閑期や余暇を利用して、より豊かなヒューマンドキュメンタリーを築こうではないか。



一月の短歌

短歌会

電線にとられし風の唯一つ々映薄れ星のまたたく……………金内 セツ  
値を負けし梅の一鉢わが買ひぬ昼も過ぎたる雨の市場に……………平松清治郎  
広島の酷き躰験生かしぬき地球土より原爆絶たん……………柏 直樹地  
あれこれと思ひめぐらし歌よみて静かなる家に一人留守居す……………乙川 竹  
亡き夫の格別愛でし雪椿小さき箱に寝たばしる……………泉井 ヨ子  
朝晴の吾が狭庭辺に日の射して椿の樹氷は緑を写す……………小出美喜子  
命ある限りは歌を詠みなんと年新たまる目に思ふ……………酒井 庄平  
上達の早きを望むと熱いて我に話せり病床の師は……………阿部 浄子



赤い羽根 共同募金

昨年十月一日から実施いたしました赤い羽根共同募金運動は、みなさんの温かいご協力で三百八十九万九千五百円の多大な成果をあげることができました。これは、目標額三百四十九万九千円を大きく上回るものです。

このお金は、恵まれない人たちがや施設に昨年末、配分されました。募金に寄せられたみなさまのご協力に対し、深く感謝いたします。

黒埼町共同募金会会長 浅妻茂一郎

作品・意見を募集

街かどでは、皆さんの作品(絵画、写真、イラスト、短歌、俳句など)や日ごろ感じられている意見を募集しています。

また、「作品や意見はあるがどうも……」と思われる人は連絡してください。広報編集者が取材に行きます。原則として必ず取りあげますのでご協力お願いします。

投稿、連絡先

黒埼町役場 企画調整課  
黒埼町大野二八四三十一

七―二一〇―